

## 子どもの学ぼうとする意欲を高め、確かな学力の向上を図るために(1年次)

—教科学習において「質の高い学習集団」に育てるための授業の在り方—

森 文子(京都市総合教育センター研究課 研究員)

平成19年に改訂された学校教育法には、「学習意欲」を学力の三要素の一つとする旨が明示されている。過去のPISA(OECD生徒の学習到達度調査)や教育課程実施状況調査の結果などから学習意欲が高くないという課題が明らかになったが、その後、様々な取組により改善傾向にある。しかし依然として国際平均と比べ、まだ高いとはいえない。そこで、本研究では、学級という集団を生かして、子どもの学習意欲を高めることができなかと考え、質の高い学習集団を目指し、学習意欲のみなもととされる「他者受容感」「有能感」「自己決定感」を育てる活動を授業に位置付けることにした。

### 第1章 学習意欲と確かな学力

#### 第1節 学習意欲が重要とされる背景

学習意欲は、現行の学習指導要領の総則に「主体的に学習に取り組む態度」として挙げられている。学習意欲は、学力の他の二つの要素の充実につながる重要な要素である。

子どもがより達成感や楽しさをもてる授業づくりを意識し、子ども自身が「わかった」と実感でき、自信をもてるような授業を展開していくことが、学習意欲はもとより、知識や技能の向上においても重要であると考えられる。

#### 第2節 学習意欲の構造

意欲を心理学の視点でみると、「動機付け」という言葉で表すことができる。動機付けには、外発的なものと内発的なものがあるが、教育で目指すべきは、意欲を持続可能なものとする内発的動機付けである。この考えに基づいた学習意欲のみなもとには次の三つの要素があるとされており、筆者はそれらの要素を下の図1のように位置付けた。

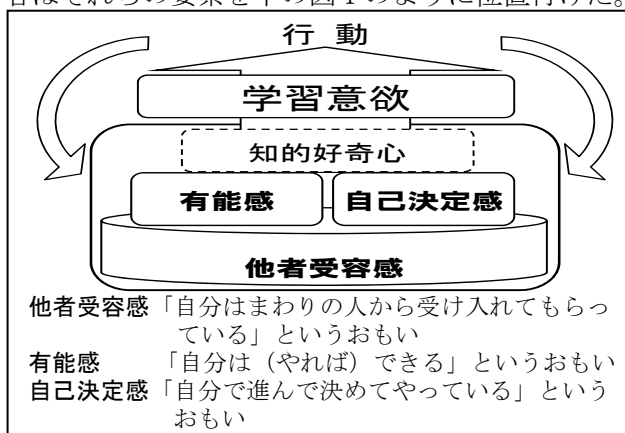


図1 学習意欲の発現プロセス(一部)

三つの要素がそれぞれ高まるような学習活動を教科学習において設定し、実践、検証することにした。

### 第2章 「質の高い学習集団」に育てるために

#### 第1節 「質の高い学習集団」とは

小学校の学びの多くは、学級を基にして行われている。学校で行う学びのよさは、集団で学習できることである。集団については小学校学習指導要領解説特別活動編に「望ましい集団活動」が挙げられている。これを基に、「質の高い学習集団」の条件を考え、以下のように示した。

##### <「質の高い学習集団」の条件>

- a. 安心感
- b. 所属感、連帯感
- c. 認め合う人間関係
- d. めあての共有
- e. 学びの過程の共有
- f. 個の活動の保障
- g. 振り返り

これらの条件は、a～cを集団維持機能、d～gを目標達成機能とみることができる。質の高い学習集団を目指すべく、条件に適う活動を意図的に設定していくことが、先に挙げた学習意欲のみなもとである三つの要素を育てることにもなり、学習意欲が高まると考えた。

#### 第2節 集団での学びの在り方を探る

ここでは、質の高い学習集団の育成を目指し、以下のような集団での活動を授業に位置付けることが必要であると考えた。

##### <集団維持機能を高める活動>

- ・学習規律を明確にする活動
- ・役割関係に基づいた活動
- ・伝え合い活動

##### <目標達成機能を高める活動>

- ・単元の学習内容の計画を立てる活動
- ・本時の活動の見通し活動
- ・課題別グループ活動
- ・伝え合い活動
- ・振り返りや自己評価を交流する活動

更に、集団での関わり合いをうながすための個に対する支援を行うことで、より学習意欲を高めることができると考え、例を挙げた。

## 第3章 「質の高い学習集団」に育てる授業実践

### 第1節 集団維持機能を高める活動の実践

#### ◆学習規律を明確にする活動

学級活動「授業を10倍楽しくする方法」で、授業を楽しくするためにどのようなことをすればよいかについて話し合い活動を行った。第2学年では、ルールについて、第6学年では、他者との関わりについての意見が出された。この話し合いの後の授業では、声を掛け合って、子どもたちがルールを守ろうとする姿が見られた。

#### ◆役割関係に基づいた活動

第6学年理科「水よう液の性質」では、自分たちで役割分担をし、実験を行う場面を設定した。役割分担をしたことで、結果をまとめる際、一人一人が積極的に話し合いに参加できた。

#### ◆伝え合い活動

集団での話し合いの後に、本時の学習内容をペアで伝え合う活動を行った。自由な話し合い活動に苦手意識をもっている子どもにとって、話す内容が明確で、話す機会が保障されている伝え合い活動は有効であった。

### 第2節 目標達成機能を高める活動の実践

#### ◆単元の学習内容の計画を立てる活動

既習の単元の学習を想起したり、身近なものをみて、気付いたことから学習問題を作ったりして、単元の学習を見通し、計画を立てた。子どもたちは学習内容のつながりをとらえ、その後の授業にも主体的に取り組むことができた。

#### ◆本時の活動の見通し活動

授業で課題を設定した後、一人で考える前に全体の場で見通しを話し合う活動を設定した。掲示物やプレゼンテーションを使い、話し合いを行うことで、一人一人が何をすればよいのか確認し、次の活動に取り組むことができた。

#### ◆課題別グループ活動

第6学年算数科「円の面積」では、円の公式を考える活動で、ひもを切って面積の公式を考えるグループと円を分割して面積の公式を考えるグループに分かれ、課題解決を行った。同じ考えをもつ友だちと一緒にいることで、教え合ったり、同じ答えであっても異なる考え方があることに気付いたりできた。

#### ◆伝え合い活動

相手に学習内容を説明して伝え合う活動を行ったことで、自分の理解につながったという振り返りがみられた。また、話すことに慣れ、徐々に全体の場でも発言できる子どもが増えた。

#### ◆振り返りや自己評価を交流する活動

「次はこんなことをしてみたい」という振り返りを交流することで、次時の学習への課題意識をもつことができた。

### 第3節 集団での関わり合いをうながすための個に対する支援の実践

#### ◆時間配分表の活用

1時間の学習の流れが見える時間配分表を提示した。この表は、活動の時間や次の活動を確認したり、学習を振り返ったりするときに役立つことがわかった。

#### ◆練習問題の選択

第2学年「たし算とひき算のひっ算(2)」では、適応題として基本的な問題と発展的な問題を用意し、子どもたちが選択して取り組むことができるようにした。子どもたちは自分に合った問題を選ぶことができ、意欲的に取り組む姿が見られた。

#### ◆学習した内容を活用する活動

第6学年算数科「図形の拡大と縮小」では、縮図の考えを使って、学校から駅までの距離を求めたり、学校にある木の高さを求めたりした。このような活動を通して、学んだことが実際の生活に生かせることを実感でき、ほかの場所でも生かしたいという気持ちをもつことができるようになることがわかった。

## 第4章 子どもの学習意欲の向上を目指して

### 第1節 研究の成果と課題

本研究での実践において、質の高い学習集団を目指す活動を授業に取り入れることで、子どもたちがお互いの意見を認め合おうとしたり、進んで学習に取り組もうとしたりすることができるようになった。一方、発達段階によって活動に対する教師の支援を工夫する必要がある。低学年では教師の影響が大きく、高学年では友だちの影響が大きいことから、学年が進むにつれて、子どもが主体的に活動する場を増やす必要がある。

### 第2節 今後の取組に向けて

本研究の取組は教科の枠を越えて実践できるものである。「質の高い学習集団」を目指すために、低学年では、どの教科学習においても、教師による模範の提示と主体的な活動へ向けての支援が重要である。その積み上げのもと、徐々に教師の支援を減らし、高学年では、集団のもつ力を生かせるような活動を設定することが、子どもたちの主体性を高め、学習意欲の向上につながると考える。